

CASBEE-建築(新築)2016年版
可燃ごみ広域処理施設整備・運営事業 建設工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
Q1 建築物の環境品質									2.9
Q1-1 室内環境									2.9
1 音環境		2.6	0.15						2.6
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	3.0	-				
1.2 遮音		2.2	0.40						
1 開口部遮音性能		3.0	0.60	3.0	-				
2 界壁遮音性能		1.0	0.40	3.0	-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-				
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	-				
2 温熱環境		2.6	0.35						2.6
2.1 室温制御		3.0	0.50						
1 室温		3.0	0.38	3.0	-				
2 外皮性能	日射遮蔽型Low-eガラスを採用した。	3.0	0.25	3.0	-				
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38						
2.2 湿度制御		1.0	0.20	3.0	-				
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-				
3 光・視環境		2.8	0.25						2.8
3.1 昼光利用		3.0	0.30						
1 昼光率		3.0	0.60	3.0	-				
2 方位別開口				3.0	-				
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	-				
3.2 グレア対策		2.0	0.30						
1 昼光制御		2.0	1.00	3.0	-				
3.3 照度	事務室の設計照度750lx、大会議室の設計照度500lx	4.0	0.15	3.0	-				
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	-				
4 空気質環境		3.9	0.25						3.9
4.1 発生源対策		5.0	0.50						
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆を全面的に採用し、かつVOCにも配慮した材料を採用	5.0	1.00	3.0	-				
4.2 換気		2.6	0.30						
1 換気量		3.0	0.33	3.0	-				
2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率が居室面積の1/30以上	4.0	0.33	3.0	-				
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.33	3.0	-				
4.3 運用管理		3.0	0.20						
1 CO ₂ の監視									
2 喫煙の制御		3.0	1.00						
Q2 サービス性能									3.1
1 機能性		2.6	0.40						2.6
1.1 機能性・使いやすさ		2.0	0.40						
1 広さ・収納性		1.0	0.33	3.0	-				
2 高度情報通信設備対応		2.0	0.33	3.0	-				
3 バリアフリー計画		3.0	0.33						
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30						
1 広さ感・景観		3.0	0.33	3.0	-				
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33						
3 内装計画		3.0	0.33	3.0	-				
1.3 維持管理		3.0	0.30						
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50						
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50						
2 耐用性・信頼性		3.7	0.30						3.7
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.8	0.50						
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	建築基準法に定められた25%増の耐震性を有している。	4.0	0.80						
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20						
2.2 部品・部材の耐用年数		3.7	0.30						
1 躯体材料の耐用年数	SRC造、一部RC・S造の混構造としている。	4.0	0.20						
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	外装仕上材:超耐久・低汚染型水性ふっ素樹脂塗装吹付	3.0	0.20						
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	ビニル床シート、ビニルクロス、ボード類	4.0	0.10						
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10						
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:SGP-VA、汚水雑排水:VPとしている。	5.0	0.20						
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20						
2.4 信頼性		3.8	0.20						
1 空調・換気設備		3.0	0.20						
2 給排水・衛生設備	節水器具を使用、災害用に受水槽に蛇口を設置している。	5.0	0.20						
3 電気設備	非常用発電機、無停電電源設備を備えている。	4.0	0.20						
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20						
5 通信・情報設備	PHS網・無停電対応電話機、災害時の有線電話を設置している。	4.0	0.20						

3	対応性・更新性		3.2	0.30		-	3.2
	3.1 空間のゆとり		4.2	0.30		-	
	1 階高のゆとり	階高が3.9m以上である。	5.0	0.60	3.0	-	
	2 空間の形状・自由さ	-	3.0	0.40	3.0	-	
	3.2 荷重のゆとり	-	3.0	0.30	3.0	-	
	3.3 設備の更新性		2.8	0.40		-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20		-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20		-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10		-	
	4 通信配線の更新性	-	1.0	0.10		-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20		-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20		-	
Q3	室外環境(敷地内)		3.0	0.37		-	2.7
1	生物環境の保全と創出	-	3.0	0.30		-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮	-	3.0	0.40		-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		2.0	0.30		-	2.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	1.0	0.50		-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50		-	
LR	建築物の環境負荷低減性						3.1
LR1	エネルギー		4.8	0.40		-	3.0
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPlm=0.82(省エネ計算結果より)	4.8	0.20		-	4.8
2	自然エネルギー利用	-	3.0	0.10		-	3.0
3	設備システムの高効率化	-	2.4	0.50		-	2.4
4	効率的運用		3.0	0.20		-	3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00		-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	0.50		-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	0.50		-	
	集合住宅の評価		3.0	-		-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	-		-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	-		-	
LR2	資源・マテリアル		4.0	0.30		-	3.1
1	水資源保護		4.0	0.20		-	4.0
	1.1 節水	自動水栓、節水型便器、機音装置を採用している。	4.0	0.40		-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		4.0	0.60		-	
	1 雨水利用システム導入の有無	3階屋根敷水栓、洗車場で雨水利用している。	4.0	0.70		-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	再生水を利用している。(公共インフラ以外)	4.0	0.30		-	
2	非再生性資源の使用量削減		3.0	0.60		-	3.0
	2.1 材料使用量の削減	-	3.0	0.11		-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.22		-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22		-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	外構に再生クラッシュランを使用している。	3.0	0.22		-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	-	-		-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-	3.0	0.22		-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		2.6	0.20		-	2.6
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30		-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		2.5	0.70		-	
	1 消火剤	-	-	-		-	
	2 発泡剤(断熱材等)	-	2.0	0.50		-	
	3 冷媒	CO2冷媒冷凍機を計画している。	3.0	0.50		-	
LR3	敷地外環境		3.2	0.30		-	3.3
1	地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率が一般的な建物に対して同等以下であ	3.2	0.33		-	3.2
2	地域環境への配慮		3.6	0.33		-	3.6
	2.1 大気汚染防止	-	3.0	0.25		-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	夏季の卓越風向に対する建築物の見付面積を小さくするよう努め	4.0	0.50		-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25		-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25		-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25		-	
	3 交通負荷抑制	建物利用者のための適切な量の自転車置場、駐車スペースを確保	5.0	0.25		-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25		-	
3	周辺環境への配慮		3.1	0.33		-	3.1
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
	1 騒音	-	3.0	0.33		-	
	2 振動	-	3.0	0.33		-	
	3 悪臭	-	3.0	0.33		-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40		-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70		-	
	2 砂塵の抑制	-	3.0	-		-	
	3 日照阻害の抑制	-	3.0	0.30		-	
	3.3 光害の抑制		3.7	0.20		-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明を行っていない。	4.0	0.70		-	
	2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30		-	

CASBEE-建築(新築)2016年版

可燃ごみ広域処理施設整備・運営事業 建設工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	2.0	○	○	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0		○	-	-	-	-	-	-	○	-	○	○	○	
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		-	○	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	4.0	4.0	○	-	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	3.0	2.0	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	3.0		○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	8.0		2.0	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	1.0	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	11.0		-	3.0	1.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			○	-	○										
2.1 材料使用量の削減	1.0		-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	15.0		1.0	1.0	3.0	3.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 風防対策及び室内照明のうちに漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	0.3	窓の日射熱取得率(η)	-
U値(W/m2K)		窓システム 2.1	屋根 0.6
住戸部分		窓システムU値	外皮UA値
外壁	0.6	η AC	床 0.9
床	0.9	η AH	-
屋光率	1.7%		
自然換気有効開口面積率	3.3%		

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	5.3㎡/人	病床	.0㎡/床	シングル	.0㎡ ツイン	.0㎡
コンセント容量	30.0 VA/㎡					
天井高	2.55 m					
リフレッシュスペース	0.5%	レストスペース	2.0%			
想定耐用年数	38 年					
想定必要間隔	15~20年 年					
想定必要間隔	20 年					
想定必要間隔	15 年					
階高	4.5(管理):m					
壁長さ比率	30.0%					
床荷重	4000 N/m2					

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

3 設備システムの高効率化

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

外構緑化指数	15%	建物緑化指数	1%
空地率	87%	水平投影面積率	6%
		地表面対策面積率	24%
		舗装面積率	21%
BPI/BPI _m	0.82	断熱等性能等級	等級2 相当
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	80.0%
		採光を満たす住戸数	80.0%
		通風を満たす教室数	80.0%
		通風を満たす住戸数	80.0%
BPI/BPI _m	非住宅 0.91	住宅	-
		太陽光	.0kW
		太陽熱等	.0kW
		蓄電池	.0kW
雨水利用率	0.0%		
特定調達品目	-	エコマーク商品	-
		自治体指定の特定品目等	-
使用比率	0.0%		
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)	
オゾン層破壊係数(ODP)	0.11	地球温暖化係数(GWP)	725
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	8
見付面積比	28%	隣棟間隔指標Rw	5.78
地表面対策面積率	34.0%	屋根面対策面積率	1.0%
		外壁面対策面積率	0.0%
見付面積S _b	1,851㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅W _s	287.7 m
		基準高さH _b	21.33 m
緑地	2,470㎡	水面	1,250㎡
		保水性対策面	㎡
		高反射対策面	㎡
		再帰性反射対策面	㎡